



飛ぶ教室

ケストナー

おぼろの夜

ボンゼルス

童話 短編

ハッセル

著 他 3 編

世界 少年少女 文学全集

飛 ぶ 教 室

ケストナー作

みつばち マーヤの冒険

ボンゼルス作

童 話 短 編 他3編

ヘッセ 他

高橋健二訳

東京 創元社

16

世界
少年少女
文学全集
16

ドイツ編 3

定価 380 円

万一落丁乱丁がありましたら
おとりかえいたします



昭和 28 年 4 月 27 日 初 版
昭和 32 年 6 月 15 日 9 版

訳 者 ^{たか}高 ^{はし}橋 ^{けん}健 ^じ二

発行者 小 林 茂

東京都新宿区新小川町 1 / 16

印刷者 中 内 佐 光

東京都千代田区飯田町 1 / 23

発行所 株式会社 東京 創 元 社

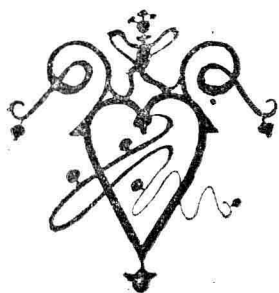
東京都新宿区新小川町 1 / 16

電話九段 (33) 代 8 5 1 1 - 5

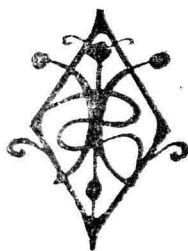
振 替 ・ 東 京 1 5 6 5

印刷所 晩 印刷株式会社
製本所 鈴木製本所
本文用紙 本州製紙株式会社特選
ク ロ ス 日本クロス株式会社特製

目次



第 16 卷
少年少女
文学全集
ドイツ編
3





飛ぶ教室

エーリヒ・ケストナー
高橋 健二 訳 13

まえがきの第一の部分.....15

ケストナー夫人とそのむす子の話しあい

ツークシユビツツエ山をのぞむ

ゴットフリートという名まえのちょうちよ

黒と白のぶちのねこ

消えない雪

なごやかなしごとじまいと、小牛が雄牛になるということ

まえがきの第二の部分.....19

緑いろの鉛筆をなくす

子どもの涙の大きさ

小さいヨナタン・トロツツの大洋渡航

おじいさんとおばあさんが、彼を迎えにいかなかったわけ

人間の不死身をたたえ、勇気とかしこさが一致しなければならぬと教える

第一章

四階の窓わたり

26





第二章

ダンスをならう数人の生徒
大いにふんがいの首席生徒
大きな白いつけひげ
「飛ぶ教室」の冒険の報告
詩のあるふたいげいこと、おもわぬ中断

36

第三章

クロイツカムがおそわれた原因と五人のマラソン
フリドリンの探察
客車の中の作戦会議
不安にたいするウリーの不安
三つの正字法のあやまり
禁煙先生に関する詳細
フリドリンの報告
ヨーロッパきつての愉快な秀才に関する対話
エーガーラント夫人のあらたな腹だし
徒歩の急便
受けいれられない条件
役にたつ作戦計画と、もっと役にたつ禁煙先生のていあん

44



第四章

技倒におわる一騎うち

実業学校生の違約

エーガーラントの精神的な苦しみ

マルチンのなぞの作戦計画

地下室でいくつもはりとばす

ひとかたまりの灰

勝ってもよいというゆるしと、エーガーラントの退陣

第五章

美少年テオドルと出くわす

寄宿舎のきそくについて話しあう

思いがけぬほめことば

ふさわしい罰

舎監の長い物語

少年たちがあとで言ったこと

第六章

六頭だての馬車の絵

古いしゃれを大いによろこぶ

ずぶぬれにおどろく

ゆうれいの行列



第七章

かゆく^{こな}なる粉^{こな}をまく動物^{どうぶつ}
窓^{まど}ふちのヨーニーとみらいの計画^{けいかく}

クロイツカム教授^{ケイトウジキョウ}を語る

ぞつとするできごと

少年^{せうねん}たちが五度書^{ごどしょ}かされる文章^{ぶんしょう}

幕^{まく}あいにふしぎな予告^{よこづけ}

ベク先生^{ベクせんせい}との散歩^{さんぽ}

菜園^{さいえん}内の再会^{さいかい}と、かき根^{かきね}のそばの握手^{あし}

第八章

たくさんのお菓子^{かし}

飛ぶ教室^{とぶけうしつ}のつぎのけいこ

ウリーがかさを持つて^もっているわけ

体操場^{たいそうじやう}と校舎^{がうしや}の中でこうふん

ベク先生のなくさめと第三ピアノ室^{だいさんぴあનોしつ}

第九章

不安^{ふあん}についてゼバスナンの原則^{げんそく}的な説明^{せつめい}

役割^{やくわい}の変更^{へんこう}

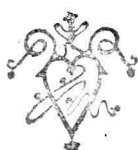
病室^{びやうしつ}をそつとたずねる

100

92

83





第十章

「されこうべ」料理店とあたたかい夕食
郵便集配人とマルチンの家への手紙

休暇まえのさいごの授業日

キルヒベルクの散歩といろいろなめぐりあい

マチアスに、もう一まいの板チョコ

体育館のクリスマス祭

おもいがけぬ見物人

おくりものにたいするあいさつ

マルチンのベッドのそばの瞬間

第十一章

陽気な停車場

生徒のいない学校

九柱戯場で発見

そつとかき根をこす先生

ウリーの見まい

両親をえらぶことはできないという、ヨーニーの主眼

二度おなじ言いのがれ

第十二章





美しいクリスマスツリーと小さい松

一こ四ボンドもあるネーブル

たくさんの涙

くりかえし鳴るベル

泣き笑い

新しい色鉛筆とその使いぞめ

ヘルムスドルフの夜間ポストと流れ星

あとがき.....138

バスと市電

くじゃくちょう・ゴットフリートと、エドアルトという小牛の、悲しい思い出

ヨーニー・トロツツと船長にあらう

正義先生と禁煙先生にくれぐれもよろしく

本のおわり

ケストナー氏の二、三の意見(「点子ちゃん」から).....高橋健二訳.....143

勇氣について.....145

貧乏について.....146





みつばち マーヤの冒険

ワルデマル・ボンゼルス
高橋 健二 訳
151

誇りについて	147
好奇心について	148
真剣さについて	149
自制について	150

第一章 ふるさとの町を出るマーヤ	153
第二章 ベッビーのばらの家	161
第三章 森の湖とそこに住むものたち	169
第四章 イッフィーとクルト	181
第五章 ばった	192
第六章 ブック	200
第七章 マーヤ、くもとらえられる	209





歩道の紙包み（幼年時代）から

ワルデマル・ボンゼルス
高橋健二訳

第八章	かめ虫とちようち	220
第九章	ハンニバルと人間とのたたかい	226
第十章	夜のふしぎ	239
第十一章	妖精の旅	252
第十二章	ななほしてんとう虫、アロイス	258
第十三章	盗賊の城	264
第十四章	脱出	271
第十五章	帰郷	278
第十六章	みつばちとくまばちのたたかい	285
第十七章	女王のおあいて役	293





短 たん

編へん

三本のぼだいじゅ

高ヘル
橋マン
健・
二ヘッ
訳セ
343

345

木でできた少女

三人の若いおよめさん

山ができたときの話

ふた子の王子おうじ

ライオンと王さま

水の上の一
銭玉せんだま

山のなかの子どもたち

木の上の少年

337

333

331

328

322

318

316

311

童ども

話

（「^{ちじよう}地上の^{その}園」から）

ウイ

高橋健二 訳

309





解

説

高橋 健二
409

地球創造の際に起ったこと	393
空の星のゆらい	394
おおかみはどうして造られたか	396
みつばちの使い	399
人間を造るときに起ったこと	401
生物と地球	403
エジプトへ避難の途中に起ったこと	405

伝

説

高橋 健二 訳
391

少年の日の思い出	350
おさない友の死	357
少年時代から	362
おさない日の聖フランシス	381



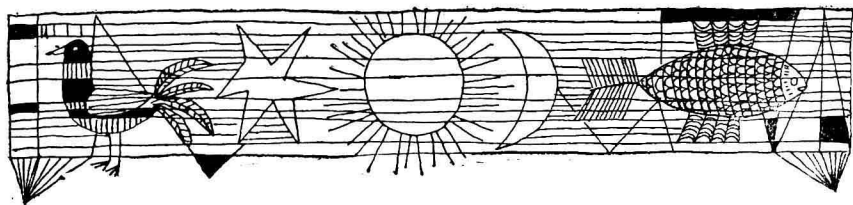


さ
し
絵

そ
う
て
い

油
野
誠
一

初
山
滋



飛ぶ教室

エーリヒ・ケストナー

高橋健二訳

